



イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：520千円

ユニバーサルデザイン絵本コンクール2016および世界のバリアフリー絵本展

目的・趣旨 「ユニバーサルデザイン絵本コンクール・ワークショップ」及び「世界のバリアフリー絵本展」を開催することで、ユニバーサルデザインへの関心を高める。さらに絵本の持つ可能性を追求する。

日時・場所 平成28年5月21日から平成29年3月4日
静岡文化芸術大学、浜松市役所、大崎ゲートウェイ、静岡県立中央図書館ほか

体制

(実施代表者)	文化政策学部	文化政策学科	教授	林左和子
(実施分担者)	文化政策学部	文化政策学科	准教授	小杉大輔
	デザイン学部	デザイン学科	教授	的場ひろし
	デザイン学部	デザイン学科	准教授	小浜朋子

共催・後援等 (後援) 静岡県、静岡県教育委員会、浜松市、浜松市教育委員会、静岡県立中央図書館、日本図書館協会、絵本学会事務局、日本国際児童図書評議会ほか

内容

いろいろな立場の人が共に楽しむことができる、ユニバーサルデザインの考えを取り込んだ絵本を全国から募集するとともに浜松市内を中心にワークショップを開催し、それらの作品を本学ギャラリー及び浜松市役所、大崎ゲートシティホール（東京）において展示会を開催した。また、ポローニャ国際ブックフェアでIBBY（国際児童図書評議会）が隔年で発表する「障害のある青少年のための推薦図書」を本学ギャラリーにおいて「世界のバリアフリー絵本展」として展示開催した。



チラシ

作品集

結果・成果

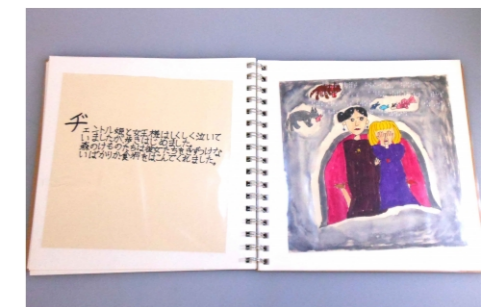
【ユニバーサル絵本ワークショップ】（参加者合計330名）ユニバーサルデザインへの関心を高めるとともに、絵本制作を通して物語をつくる楽しみを知る。また家族で参加した場合、ふれあいの機会ともなった。

【世界のバリアフリー絵本展】（来場者255名）絵本を通してユニバーサルデザインへの関心を高める。さらにいろいろな国の絵本を見ることで他の国の生活などへの関心が高まった。

【ユニバーサルデザイン絵本コンクール2016・展示会】（来場者175名）応募作品子ども部門11点、高校生部門3点、一般部門9点で、この中から大賞1点、ユニバーサルデザイン研究賞1点、子ども部門優秀賞2点、佳作3点、高校生部門佳作1点、一般部門佳作2点、特別賞2点が選ばれた。また表彰式に合わせて、「ユニバーサルデザイン絵本コンクール7年間」と題する座談会を開催、講師として第一回コンクールから連続7年応募があった、熊本県宇城市立中央図書館館長を中心にコンクールの存在が図書館で開催する絵本講座の目標となっていることなどの話があった。



大賞「はっぱ もり やま」



UD研究賞「チェントル姫と女王様」

最後に、今回のコンクール及び展示会は学生の力によるところが大きかったことを記しておく。今回のコンクール募集のチラシとポスターは、デザイン学科2年西尾かなでのデザインである。また作品集は文化政策学科2年の村松咲歩が編集を、デザイン学科2年狩野里穂が表紙絵を担当した。学内で行った展示会は国際文化学科2年の柴田頼人が中心になって飾りつけが行われた。浜松市役所展示会では文化政策学科3年松本敏洸が中心となってレイアウトを考え、文化政策学科2年清菜々が展示パネルを作成した。さらに両展示会ともに、学生が来場者へのコンクールの趣旨や作品の説明を担当した。今後、さらに学生が運営に積極的に携われるよう考えていきたい。